レッスン：SPA 81

テーマ：質問＆答え

SPA 81/KE2000JI6.21/6/00

私の姉妹・兄弟達、スピリット、光、火の子供達よ。私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

前のレッスンで説明したように「創造の元型」は法則であり、それは最大および最小のものなど全てに当てはまります。最大と言うときそれは、様々な宇宙が生み出される能力を提供し、同時に現れとしての「生」が様々なレベルでそれ自身を現す能力を意味します。それは神の黙想の仕事が継続していくために必要となります。

さて、前に述べたようにこの元型は４つの主なレベルに分けられます。最初のレベルはアウタルキーにある絶対存在を意味します。

２番目のレベルは創造と表現のために特別な黙想にあるレベルです。それが行われるレベルですが、そこにはいかなる意味もありません。

３番目のレベルは元型（複数）、イデア（複数）、法則（複数）、原因（複数）の諸世界である創造界です。そしてこのレベルにおいて創造界の元型を見出すことができます。それは人間のイデアに与えられ、同時にあらゆる現れ、あらゆる創造物に与えられます。この元型は人間のイデアのためだけでなく、創造の諸世界に現れるあらゆるもののイデアのためです。

４番目のレベル、それは創造界における最も低いレベルであり、それは現在のパーソナリティー、そして実存の諸世界のレベルです。なぜなら現在のパーソナリティーは実存の諸世界にいるからです。そしてこのレベルはまだ現在のパーソナリティーになっていない人間、つまりアダムとイブのレベルではありません。アダムとイブのレベルはここ、現在のパーソナリティーが自己実現に到達するレベルです。

自己実現した現在のパーソナリティーは生命の木のどこに位置するでしょうか？それは最初の磔のポジションです。つまり現在のパーソナリティーが生の本質を完全に表現するポジションです。しかしアダムとイブもまた生の本質を完全に表現しています。それでは自己実現した現在のパーソナリティー、あるいはアダムとイブは１つの現れなのでしょうか？アダムとイブと言うとき、それは２つではなく１つであり、性別はまだありません。

ですから最初の磔のポジションにこの２つ（＊自己実現した現在のパーソナリティー、及びアダムとイブ）があります。そして更に述べるなら、そこには永遠のパーソナリティーがあり、魂のセルフ・エピグノシスが存在の諸世界と実存の諸世界の境界上にあります。つまり、現在のパーソナリティーとして転生していくこのスパークの前です。ここで言う転生とは、アダムとイブとしてのこのスパークが物質と呼ばれるマインドのバイブレーションをまとうことを意味します。物質とは物質界です。

ですから、生命の木の一番低い部分は現在のパーソナリティーの世界ですが、自己実現した現在のパーソナリティーまたはその前の現在のパーソナリティーです。自己実現した現在のパーソナリティーは前にも述べたように最初の磔のポジションに留まることなく、現在のパーソナリティーの大きな下向きの三角形に戻って、再び転生のサイクルを続けます。しかしもし自己実現した現在のパーソナリティーがそのポジションに留まるなら、それはアダムとイブが現在のパーソナリティーの諸世界に入る前のポジションと同じです。

このレッスンでは創造の元型に関係あるどんな質問にも答えます。

Ｑ：今晩、私は初めてアダムとイブがスタートしたポジションを理解しました。前に理解しているべきだったのですが…というのもそれはアダムとイブが無知の世界に入るポジションであり、それ以前は彼らは…

Ｋ：それ以前は無知に入る準備であり、それはステップであり、まだ無知のなかではありません。

Ｑ：アダムとイブはしばらくの間、その準備をするポジションに留まるのですか？

Ｋ：そこには時間はありません。それは生の現れのコンディションであり、そこにはニーズは何もありません。アダムとイブがパーソナリティーを現していたと言うことは、大いに間違っています。現在のパーソナリティーとしての人間と言うとき、それはその人間が制限ある現れのなかで自己、セルフを現していることを意味します。それはまた、その人間が二元性を現す、つまり生の現象として生が表現されていることを意味します。自己実現した現在のパーソナリティーだけが時に応じて必要な時に、その人の真の本質を現すことが「可能」なのです…同時に現在のパーソナリティーとして存在しながら。

Ｑ：それはまたそれがサイクル、完全なサイクルであることを意味するのでしょうか？なぜなら、彼らは自己実現のポイントに到達しました。しかし、彼らは人々に助けを与えるために戻ってきますが、同時に彼らは法則のもとにいます…

Ｋ：自己実現した現在のパーソナリティーは誰もが経るもの全てを経験します。その人は原因・結果の法則がもたらすものを経験し、また生の現象を現します。さもないと、その人は他の同胞である人間達から受け入れられないでしょう。

Ｑ：しかし、自己実現のポイントに到達しながらもまた戻ってくるということは、円をぐるぐる回りしているように見えますが…

Ｋ：でも意味は異なります。自己実現した現在のパーソナリティーにとって二元性は異なるのです…たとえ原因・結果の法則の下にあっても。特にサイキカル体の行動は完全に異なっています。

Ｑ：例えばこう考えてもよいでしょうか。生命の木を見ながら勉強します。四面ピラミッドの下にあって、私たちは自分に対する気づきが高まります。そして無知に関する気づきも高まります。気づきが高まるに従って、生命の木のこのポイントにより根付くということでしょうか？この一面の三角形にもっと根付くように気づきを高める努力をするのでしょうか？それが私達の経験なのですか？

Ｋ：とにかく、この創造のセル、元型に親しんでいくと、それは現在のパーソナリティーにとって助けになります。同時に素質的可能性の様々なサイクルのなかで努力をし、特にその人がいるサイクルにおいてそれらの助けを利用していくのです。四面ピラミッドとあなたは言いましたが、それは四面ピラミッド、他のピラミッドだけではありません；もしあなたが創造のセルに親しめば、あなたがいるサイクルのなかの様々な助けをマスターする努力にとって、大いに役立ちます。

Ｑ：これまで私たちは様々な三角形の下にいましたが、いま私は一種の投射として創造のセルのなかを見ているように感じます。

Page3

K：創造のセルは法則であり、その中に素質的可能性のより小さなサイクルがあります。創造のセルは創造界における最大の法則ですが、同時にこれは神の黙想が行われていることを示しています。神の聖なる黙想から創造界における諸世界の現れの様々なレベルがスタートしました。以前、それはそれ自身のアウタルキーにおける絶対存在を示していると説明しました。２番目の部分は創造と現れのための特定の黙想が行われているレベルを示しています。そして次のレベルは創造の諸世界であり、そこには様々なイデア、様々な法則、様々な原因、そして元型それ自体があります。元型の様々なレベルについて話していますが、ここでは創造界で表現するための元型があります。それは天上人によって提供されます。

ですから、現れを越えたところにある最大のものがあります。それはアウタルキーにある絶対存在の聖なるステートから、それ自身のなかの様々な現れのレベルが生じます。そしてこのレベルから絶対存在の本質のなかにある元型が生じます。さもないと、創造界にある全てを保つための法則を持つことができません。なぜなら、無からは何も生じないからです。

ですから、まず絶対存在のなかのこの特質について説明しました。そしてアウタルキーの中における神の黙想の様々なレベルについて説明しました。なぜなら、全てはアウタルキーのなかにあるからです。ですから絶対存在のアウタルキーのなかにある１つの特質として全てがあります。そしてその特質のなかには様々なレベルがあるわけです。そしてこのレベルにおいて今や、創造界と現れがあります。そして次は現在のパーソナリティーの諸世界、実存の諸世界です。しかし、このB７（生命の木の表で、左側の下の部分）のレベルにおいて、現在のパーソナリティーとして実存の諸世界に入る準備をする段階にある生があります。しかし、そのポジションにはまた純粋な諸世界としてのサイコノエティカル界も見出されます。

純粋な諸世界と言うとき、それは生がその本質を完全に現しているという意味です。そしてそこにあるものは様々な気づきのレベルに依存していないということです。それらの諸世界は聖霊によって創造されたとおりの世界であり、またそれらの諸世界は１つなのです。それは前に説明した、人間の気づきのレベルの数ほどあるサイコノエティカル界の世界ではありません。このポジション（＊Ｂ７のレベル）では世界は１つしかありません。そして、そこには現在のパーソナリティーとしての人間がいますが、それは多重性のステートと一つになっている人間です。

多重性のステートにおいては１つの現在のパーソナリティーしかありません；なぜでしょうか？なぜなら自己実現した現在のパーソナリティーとして、誰もが生の特質を表現しており、唯一の違いは、それが自己実現したモナド・セルフであることです。しかし、このポジションでは全ての自己実現した現在のパーソナリティーが生の海（それは１つです）のなかに入っています。多重性のステートにおいて唯一の神が存在します。

ですから、ワンネスとはアウタルキーの階層における絶対存在だけではなく、創造界においてもワンネスがあるのです。魂のセルフ・エピグノシスのワンネスがあり、その場合、存在の諸世界における人間のイデアを通じたあらゆる現れは１つと見なされる、と言う意味です。

全ての魂のセルフ・エピグノシスは１つの現れ、人類の現れです；なぜでしょうか？なぜなら、海のなかの全ての一滴は一つの海のなかにあり、海は一つだからです。同じ事があらゆるアークエンジェルのオーダーについても言えます。ミカエルのオーダーは１つであり、多重性のステートにある１つのミカエルがあります。そのオーダーの中にはどれぐらいのモナドセルフがあるのでしょうか？無数のモナドセルフがあります。勿論、人間がその海に戻った時にも同じ事が言えます。もし人間がそのステートに留まるとしたら、それは自己実現でスタートします。しかし、それは１つの惑星上の全ての人間が自己実現に到達した時にのみ生じることで、それ以前ではありません。

Ｑ：自己実現した人間が死んで、再び転生してくる場合についてですが、あなたは前のレッスンで、自分が自己実現したという事実に気づくには一定時間がかかると言いました。次に生まれてくる時には、自己実現していることに気づくための時間は変わるのでしょうか？

Page4

Ｋ：それはその自己実現したパーソナリティーがどのようにして人々を助けるかによります。

Ｑ：つまり彼らは学ぶ必要があるのですか？

Ｋ：経験です。全ての人の経験は異なっています。しかし、その人はジャッジすることはできません。なぜならもはや比較する物差しをもっていないからです。この物差しが提供されるようになると、徐々にそのパーソナリティーは何であれ内側から表面にもってくるでしょう。あるいはそれが突然起きることもあり得ます。

Ｑ：それでは自己実現した現在のパーソナリティーには進化・成長はないのですか？

Ｋ：ありません。進化成長、経験などは必要ないのです。ただそのパーソナリティーは経験をしていき、そして勿論彼らはそれぞれ異なっています。なぜなら同じ経験、同じ活動などはないからです。しかしそれらの経験は進化成長に向けて何も提供しません。しかし原因・結果の法則があるので、経験は結果をもたらします。そして、結果とは人々に奉仕することです。そして前に説明したように、そのようにして最愛のお方は。自己実現した現在のパーソナリティーを通じてこの世界の重荷を背負っているのです。なぜなら、何であれ自己実現した現在のパーソナリティーから与えられるものは、実際にそれは主から来ているからです。主がそれを与えているのです。

肉体は必要です。さもないと、他人の重荷を背負うことができません。様々な意味を経るためには肉体が必要であり、勿論その意味は現象として自己実現した現在のパーソナリティーによって生きられるのです；それらは素質的可能性の様々なサイクルの下にある他のパーソナリティー達と全く同じように生きられるのではありません。

Ｑ：この「創造のセル」は最大の法則であるとあなたは言いましたね。それは他の太陽系、他の惑星についても適用できるということですか？同じ創造の原理、絶対存在が働いている同じレベルが他の太陽系にも見られるのでしょうか？

Ｋ：そうです。この法則は創造界全体のためのものです。そしてもし人間について学ぶなら、それは創造界それ自体を学ぶことになります。なぜでしょうか？なぜなら、この元型は実際、人間のイデアのためなのです。そして創造界にあるものは全て人間のイデアに奉仕するためにあるのです。さもなければ、様々な異なった銀河、異なった太陽系、惑星などは存在しないでしょう。仕事、神の仕事は人間のイデアを通じて達成されるのであり、それは絶対存在のワンネスの多重性のなかにあるモナドセルフが自己実現を現すためであり、それ以外の何ものでもありません。

Q:法則のアンバランスは外側への顕現として原子の爆発を招く、と言いました。そして２つめに、球体の形は内側への顕現であるといいました。その場合のアンバランスの意味を説明してくれますか？

Ｋ：もし私たちがこの法則のアンバランスを生み出すと、その結果が生じます。その結果は、何であれ創造界の様々なレベルのなかに存在する類似した形態を築く能力と等しくなります。例えば物質の原子の場合、物質の原子はこの法則に従って形成され、そして内側から、そして外側からの等しいパワーがあります。さもないと原子は存在しません。もし原子、つまりその核のバランスに干渉して崩すと、相等しいパワーが崩れ、原子爆弾となります。

Ｑ：テクノロジーによって遺伝子を変えることについてはどうでしょうか？何かつながりがありますか？遺伝子操作によって組成を変えることにならないですか？それらもまたセルに働きかけることになりませんか？

Ｋ：一番大きな結果は、細胞の核が細胞内のバランスを崩す時です。

Ｑ：それではこの球体の形とは何ですか？それは法則の内側におけるアンバランスですか？

Ｋ：内側のバランスです。もしアンバランスを作り出すなら、原子爆発が生じます。

Ｑ：そうです。そしてまた球体の形について述べましたね。

Page5

Ｋ：形、そうです形は内側のバランスです。それは内側にバランスを与えます。そして私たちは常に惑星上で球体をしている物質を見出そうとします。そして何故球体をしているかを説明しましたね。そしてどうして精子と卵子があるかについても。

ですから、この法則は単に地球上のみならず創造界全体に関するものです。最大の物にも最小のものにも当てはまります。もし小宇宙的に私達の肉体を研究するなら、そこから適切な知識を得ます。そして他の諸体にも目を向け、徐々に自分自身を知るようになり、最後には創造界それ自体全体を知るようになるでしょう。古代ギリシャでは「もし自らを知るなら、創造界それ自体を知るであろう」と言いました。これはあらゆる哲学の学派が建物の外側に書いた言葉です。

Ｑ：生物学的に人体をどのように勉強すべきか考えています。理解すべき沢山の名前、意味がありま；勉強する上でどのようなやり方がベストでしょうか？

Ｋ：肉体の全ての機能を知るようになるという意味ではありません。現在のパーソナリティーに関する肉体を知ることは必要ではありません。勿論、徐々に現在のパーソナリティーはこの肉体が真の自分ではないことを認識するようになるでしょう。現在のパーソナリティーとしてさえ、私たちは肉体ではありません。そして現在のパーソナリティーとしての真の自己実現を見出そうとすることによって、徐々にゆっくりとこれらの不定形の諸体を再形成することができます。そしてそれらの諸体が真の現在のパーソナリティーなのです。そうするとき、つまり自己実現に到達する時、創造界それ自体を良く知ることができるのです。なぜなら、その時現在のパーソナリティーはその真の本質を現すようになるからです。

実存の諸世界においては、全ては様々な法則の下にあります。先日私は次のことを知りました…ある科学者達が実験の結果、光よりも速い速度があることを発見したが、まだそれについて実験中だということです。彼らによると、彼らはそれが光速の何倍の速さかを特定したということです。勿論、真理の探究者は速度さえも存在しないことを知るべきです。速度と見なすもの、それもまた意味にすぎません。しかし、「生」(Life)は二元性のいかなる制限をも受けません、ですから実際には速度というものは存在しないのです。

Ｑ：アークエンジェルは人間とは異なるイデアに属す、あるいはそれを通じて存在しているのでしょうか＿

Ｋ：アークエンジェルですか？アークエンジェルはイデアを通じて生じます。聖霊のイデアを通じた現れです。あるいは絶対存在のダイナミックな現れといっても良いでしょう。

Ｑ：アークエンジェルは人間であることがどのような状態であるかがわからないのに、どのようにして人類を助けることができるのですか？言い換えれば、体験を通じてその人の問題を理解できなければ誰かを助けることはできないと思うのですが。

Ｋ：様々なプロセスを通じて成長するということをあなたは言いましたが、しかしアークエンジェルは特定の働きをするべくプログラムされた生の真の現れです。彼らは何がその人にとって益になるか否かなどを判断しません。彼らは進化成長することはなく、生の純粋なる現れです。生の海において、人間とアークエンジェルとの違いは、人間にはプログラムされたセルフ・エピグノシスがなく、創造に奉仕しながらも決してアウタルキーを去ったことはありません。しかし、実際創造界はどこにあるのでしょうか？アウタルキーのなかで。

それが絶対存在の特質の中であると見なすなら、何であれセルのなかにあるもの、それは実際アウタルキーの中ではないでしょうか？前に説明しましたが、私たちは絶対存在のアウタルキーのなかで、絶対存在のワンネスの中でアプローチします。そしてそのワンネスにはこの元型の様々なレベルがあります。ですから、絶対存在の特質のなか、ワンネスのステートの中の何かとしてそれを見ることができます。そのステートにはまた私達が学んでいる様々なレベルがあるのです。

Ｑ：以前のレッスンで述べられたことですが、自己実現したパーソナリティーは、無知にある人間が理解するアークエンジェル的フォームなのでしょうか？

Page6

K：前に説明しましたが、自己実現した現在のパーソナリティーは、自分のアークエンジェル的状態を表現しています。そうです、現在のパーソナリティーは同時にセルフ・エピグノシスの境界を持たないアークエンジェルです。しかし、現在のパーソナリティーはそのアークエンジェル的本質を完全には表現していません。それは存在の諸世界のなかでのみ表現することができ、その境界では不可能です。なぜならば、境界では人間の現れは依然として現在のパーソナリティーとしての現れであり、現在のパーソナリティーは依然として転生のサイクルのなかにいるからです。

ですから、自己実現した現在のパーソナリティーはそのアークエンジェル的状態を現しています。なぜなら私たちにはここにその状態があるからです。自分を表現するための手段があり、触れることのできる身体があります。**イデア・フォームとしての体**ではなく、**マインドからできている諸体**があります。しかし、前は、生の海のワンネスのなかにいた時には、確かに人間もアークエンジェルでした。勿論、「でした」は話の流れの上だけのことにすぎません。なぜなら、

**現在のパーソナリティーを転生されるスパークは決してそのワンネスのステートを去ったことはないからです。そのスパークのほんの微細な部分だけが制限ある現れの中に入り、現在のパーソナリティーを転生させているのです。**

ですから、私たちの魂(Soul)について話す時、その魂は決して生の海を去ったことはなく、現在のパーソナリティーを活性化させるスパークですら純粋なままです。無知を生み出すのはスパークではなく、手段なのです。なぜ無知が生じるかを前に話しましたが、それはフィルターであり、そのフィルターがこの法則とどれだけマッチするかに応じて、たくさんの知識が表現されるのです。マッチすればするほど、生それ自体からより多くが表現されることになります；マッチする程度が少なければ私たちは生それ自体からの表現が少なくなります。そしてそれらは手段であり、それを通して生のスパークはこの世界のバイブレーションのなかで表現するのです。**それゆえに私たちは不定形の諸体を再形成する必要があるのです。その結果、不定形の諸体が徐々にこの法則とマッチできるように。**

この仕組みはとてもシンプルです。原因は手段にありますが、もちろん、手段を生み出した原因は神の黙想によるものです。ですから全ての背後には神の聖なる目的があるのです。もしあなたが一歩一歩進んで行けば、いつかこれら全ての背後のロジックがわかるようになることでしょう。実際それはとてもシンプルなのです、しかし全てを実践するのはとても難しいのですが。

Ｑ：私の本質から愛を現す能力は、私の恐れから来るのでしょうか、それとも同胞の人類の為に自分がどれだけ喜んで結果を経験するか、自分がどれだけ人々と一体化しているかによるのでしょうか？

Ｋ：**最初は、同胞の人類のために世話をするのは自分のエゴから発します。しかし、それはスタートであり、そのような奉仕や愛を非難すべきではありません。なぜあるパーソナリティーが特定の仕方で反応するかには多くの理由があります；エゴ、恐れ、所有欲、その他。私たちが目指すのは、サイコノエティカルな成長に伴って反応し、ある高レベルの成長段階に到達したとき、その時初めて私たちが真の意味で助けると言うことができるようになります。そして私たちと言う時、それは主が助けているのであり、主が私達の内側から働いて他の人々を助けるのを私たちが許す、という意味です。ですから、実際には現在のパーソナリティーではないのです。**

現在のパーソナリティーが他人を助けていると主張するとき、実際にはそれは助けているのではありません。なぜなら、そのような手助けは交換として何かを要求するからです。交換として何かが欲しいので与えるのです…実際にはあなたがそのリアリティーを受け入れなくても、そうなのです。しかし、**「生」はお返しに何かを求めることは全くありません。**

Ｑ：人間が立っているポジションは無知と関係していますか、それは創造のセルの外側での活動を意味しているのでしょうか？

Ｋ：肉体は完全に法則によって築かれます。ただ一つの違いは、肉体の傾向、他のいくつかの結果は原因・結果の法則によって決まります。なぜなら、その肉体は特定の現在のパーソナリティーのために築かれるからです。しかし、全体としては肉体は完全に「法則」に従って築かれます。それゆえに私達の身体はこのような形をしています。しかし無知にある現在のパーソナリティーを示す諸体は法則に従っていません。

Page7

そして前に説明したように、現れとしての生がなぜ完全に表現されないかというと、それはフィルターのステートによります。生が完全に表現されるためには、フィルターは法則に応じて築かれる必要があります。そしてこれらの諸体が完全に法則にマッチしている必要があります。そしてその法則はまた人間のイデア・フォームを与えます。人間のイデア・フォームは完全に法則とマッチしています。なぜなら、それは法則の結果だからです。**真の本質を完全に表現したければ、諸体が完全にイデア・フォームとマッチする必要があります。繰り返しますが、諸体が最初球体をしている理由は、現れとして私たちは惑星上で現されるからです。**

Ｑ：前に月は地球にとって最大の病院だといいましたね。

Ｋ：はい。

Ｑ：それはどういう意味ですか？それはどのような働きがあり、機能しているのでしょうか？

Ｋ：月に「連れて行かれる」パーソナリティー達には、地球という惑星のエーテル界に入るチャンスがありません。彼らは常に観察下、指導下にありますが、彼らはそれを認識していません。彼ら各人は再び自分自身のパラダイスを生きています。しかし、牢獄のような所だと見なさないでください。違います。彼らは一人一人自分たちがやりたいことをやっています。しかし、常に指導下にあります。彼らがそのガイダンスをどれだけ理解するかは全く別問題です。ある場合には、彼らを静めるために眠りのようなステートに置かれることもあります。

Ｑ：それは地球に生きていた時に悪いことをした結果ですか？

Ｋ：もし彼らが多くの悪いことをしたなら、確かにそのとおりです。なぜなら結局、サイコノエティカル界とは現在のパーソナリティーが新しい転生に入るのを準備する場所だからです。そのパーソナリティーは何であれ自分が好まなかった痛みを引き起こすものを忘れ、「心穏やかな」レベルに到達する必要があります…そのパーソナリティーが静止状態で固まってしまう原因となるものを置き捨てて、新しい転生に入るために。

Ｑ：肉体にいる間、時には私たちは沢山の願望を抱きます…もし時間がもっとあれば他のことができるのに、スキルを身につけたり、趣味に没頭したり出来るのに等。これらは願望ですが、それを達成する時間がありません。もしその願望が非常に強く、サイコノエティカル界のなかで強く表現するなら、それらの願望が実現する可能性があるのでしょうか？肉体の中にいる時にはできない事も、向こうの世界ではやりたかったことを学ぶことができるのでしょうか？例えば、私が絵を描きたいと望んでいても忙しくてその時間がありません。もしその願望が強ければ、サイコノエティカル界で絵のレッスンを受けることは可能ですか？

Ｋ：他の世界でやりたいことをするための鍵、それはあなたがまずこの世界で行うことです。そして、あなたはそれを喜びとして楽しんで行うことです。そうすれば、他の世界、サイコノエティカル界でも引き続きそれを行うことでしょう。それゆえ、真剣に真理の探究を行う人は、この肉体をもってこの世界で生きている時だけでなく、向こうの世界に行っても恩恵を得ることができるのです。肉体を持っている間に他の人間を助けるためにより良いセルフを現すなら、そのパーソナリティーは肉体を去っても、そこでもそれを続けることでしょう。知識そしてエクササイズとして与えられたもの、それは向こうの世界でそれを実行するのはもっと簡単です。なぜなら、五感を使う制限が無いからです。向こうでは探究者は５つの超感覚を使います。そして何であれ実践したいと望むことは実践できます。なぜなら、向こうではただ思うだけで創造することができるからです。そして勿論、導きが引き続き現在のパーソナリティーにもたらされます。あなたが誰かをガイドし、その人にあなたはこれができると言えば、そのパーソナリティーはそれを導きの下でやることができるのです。そのパーソナリティーは例えば、様々な意味が存在しないということに関する真理を体験することでしょう。願うだけで、一瞬のうちに他の場所に行くことができ、また次の瞬間には移動できます。ですから、向こうの世界ではそのようなことができます。それらの世界にいるパーソナリティーはたくさんのことを体験できるのです。

Page8

Ｑ：汎宇宙的潜在意識に貯蔵されている知識の結果として、誰かが潜在意識から知識を表面の意識に持ってきて、英知を現すことができるでしょうか？

Ｋ：汎宇宙的潜在意識には最も低次のレベルから最も高いレベルまでの人間が記録されています。最も高いレベルとは自己実現のレベルです。私たちは潜在意識に同調することによってガイダンスとしてこの知識を得ることができるでしょうか？そしてより高い気づきのレベルを現し、より良いセルフを現す上で助けとなるでしょうか？潜在意識に同調することによって。

Ｑ：私はある人の事を聞いたことがあります。その人は法則を勉強していましたが、法則を写真を撮るように素早く何でもピックアップすることができます。しかし生憎、それらを全く利用することができなかったのです。なぜなら、彼はそれを実際に使って実行することができませんでした。彼はただ見ることはできたのですが、見たことを理解出来なかったからです…。

Ｋ：私たちは汎宇宙的潜在意識に入り、この知識を表面に持ってくることによって、高次の進化レベルに到達することができます。なぜなら、そこには多くのことが記録されているからです。そしてそれらの質問をしたパーソナリティーに応じ、無からは無しか生じません。ですから、何であれ心の表面にもたらすものは、潜在意識のマインドに書かれた結果です。しかし、いいですか。潜在意識のマインドに記録されている何かに同調し、それをその人の導き、ガイダンスとすると大変なことになります。何か簡単な一つのことに関しても、様々なやり方、方法が記録されています。そのパーソナリティーはそれを正しく適切に選択できるでしょうか、それとも混乱した意識状態に陥ってしまうでしょうか？そうです、その人はただちに混乱状態になるでしょう。なぜなら、創造界には様々なパーソナリティー達が行ったことが無数に記録されているからです。

**私たちが何らかの知識を現す時、その知識は潜在意識のマインドからではなくて、内側から、生のスパークから来るべきです。潜在意識のマインドには全くタッチすべきではありません。私たちが行うこと、達成したことは全て潜在意識のマインドに記録されます。しかし、私たちは決して潜在意識のマインドに記録されたものを表面にもってくるべきではありません。**そうです、なぜ私たちは高度に進化したレベル、サイコノエティカルな高いレベルの記録を持ってこないのでしょうか？それは不可能です。なぜなら、そこには無数の記録があるからです。一人のパーソナリティーは従うべきたった一つの道しか一度に選択できません。一度に無数の道に従うことはできません。なぜなら、各人は例え同じ道にいるとしても理解レベルによって、気づきのレベルによって各自が自分自身の道にアプローチするからです。誰か他の人が創造したものをどうやって理解することができるでしょうか？それは不可能です。

EREVNA/SPA81/KE2001J16